

ものづくりを支える 技能の育成のために

～ものづくりの仕事と職業訓練等の諸制度～

わが国のものづくりの歴史

わが国は戦後、製造業中心のものづくり立国として発展してきた。製造業の生産額で見ると、名目GDPに占める産業別の割合では、2012年にサービス業に抜かれるまで連続して首位であり、また就業者数は、2017年4月公表の国勢調査の統計によれば、16.2パーセントと最も高かった。近年の生産拠点の海外展開や産業構造の大きな変革、国際競争の激化等に伴って製造業が難しい局面を迎えているのも確かであるが、製造業の発展は、他産業への高い波及効果もあり、今後のわが国の成長を支えるために大きな役割を果たすものであろう。次世代型製造業への脱却が急がれるところである。

従来、技術革新は、技術者の研究によって産み出され、その技術を具体化する技能者によって進められてきた。次世代型製造業への脱却もまた、技術者および技能者によって進められるものと思われる。

今号では、現在のわが国のものづくりを支えている技能がどのように培われ、それが製造業の未来に向けてどう関わっていくのかを、事例を紹介し、

人材育成の観点から考えていきたい。技能の育成を支援するための制度は、国によるもの等さまざまなあるが、主立ったものを紹介してみよう。

●職業訓練

昭和33年、旧「職業訓練法」が成立した。同法は、その目的を「労働者に対して、必要な技能を習得させ、および向上させるために、職業訓練および技能検定を行うことにより、工業その他の産業に必要な技能労働者を養成し、もって職業の安定と労働者の地位の向上を図るとともに、経済の発展に寄与すること」としており、公共職業訓練および事業内訓練の運用について定めている。

現在、公的な職業訓練は、国（独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構）および各都道府県が担っている。

公的な職業訓練は大別すると以下のようになる。

○公共職業訓練（離職者訓練）

主に雇用保険を受給している求職者を対象に、就職に必要な職業スキルや知識を習得するための訓練。

○求職者支援訓練（求職者支援制度に基づく認定職業訓練）

主に雇用保険を受給できない求職者

（受給終了者も含む）を対象に、就職に必要な職業スキルや知識を習得するための訓練。

○学卒者訓練

主に学校卒業者を対象にした就職に必要な職業スキルや知識を習得するための訓練。

○障害者訓練

障害者を対象にした訓練。

○在職者訓練

主に中小企業勤務者を対象に、従事している業務に必要な専門知識および技能・技術の向上を図るための比較的短期間の訓練。

○生産性向上支援訓練

中小企業等の労働者一人ひとりの生産性向上を支援するため、民間機関等の教育資源を活用した訓練。

そのほか、各事業主が担っている事業内訓練がある。わが国の製造業大手は、事業内訓練によって優秀な技能者を大量に養成してきた。その訓練を推進するために事業内訓練校が設置されている。

●技能検定制度

技能検定は、「働く人々の有する技能を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度」である。旧



「職業訓練法」の中で、国家検定制度として創設されたという経緯がある。

昭和35年1月に第1回の技能検定が5職種で行われ、受検者約3万1000人に対して合格者は約1万7000人であった。以後毎年、前期・後期の2回に分けてこれを実施、検定職種も逐年拡大されていった。平成30年7月現在130職種について行われている。

●卓越した技能者「現代の名工」

上級技能者のなかでも最上級技能者である「現代の名工」制度は、卓越した技能者を国が表彰することによって、広く社会一般に技能尊重の気風を浸透させ、技能者の地位や技能水準の向上を図るとともに、青少年がその適性に応じて、誇りと希望をもって技能労働者となり、その職業に精進する気運を高めることを目的としている。

昭和42年度に第1回の表彰が行われ、平成7年度までは毎年約1000人、平成8年度以降は毎年約1500人が表彰されている。

●技能競技大会

1 技能五輪全国大会（毎年開催）
技能五輪全国大会は、青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大

会である（中央職業能力開発協会と都道府県との共催）。

その目的は、次代を担う青年技能者に努力目標を与え、大会開催地域の若年者に優れた技能を身近に触れる機会を提供するなど、技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図ることにおかれている。

全国大会の出場選手は、各都道府県職業能力開発協会等を通じて選抜された者（原則23歳以下）としている。

なお、技能五輪国際大会（2年に1度）の前年に開催される全国大会は、国際大会への派遣選手選考会を兼ねている。

2 技能五輪国際大会（隔年開催）

世界各国の青年技能者がその技能レベルを競う大会である（厚生労働省および中央職業能力開発協会、一般社団法人全国技能士会連合会との共催）。正式には、国際技能競技大会（World Skills Competition）と呼ばれている。この大会は、1950年にスペインと隣国ポルトガルとの間でそれぞれ12人の選手が技能を競ったことが始まりで、ヨーロッパから全世界的に広がりを見せ、参加国および出場選手が増加し、若い技能労働者の祭典と呼ばれるにふさわしい行事に発展していった。

出場資格は大会開催年に22歳以下である者（一部職種を除く）、各国1職種につき1名または1組。直近の2017年アラブ首長国連邦アブダビ大会における日本選手の成績は、金メダル3、銀メダル2、銅メダル4であった。

3 その他

○技能グランプリ（隔年開催）

熟練技能者が技能の日本一を競い合う大会である。技能五輪全国大会が青年技能者（原則23歳以下）を対象とした技能競技会であるのに対し、技能グランプリは年齢に関係なく、熟練技能を競う文字どおり全国規模の技能競技大会。

○若年者ものづくり競技大会（毎年開催）

若年者のものづくり技能に対する意識を高め、若年者を一人前の技能労働者に育成していくために、原則として職業能力開発施設、工業高等学校等において技能を習得中の、企業等に就業していない20歳以下の若年者を対象に行われる大会。

○参考文献

- ・「中央職業能力開発協会十年史」中央職業能力開発協会
- ・「ものづくり白書 製造基盤白書」経済産業省